

この『生きがい通信』は、兵庫県生きがい創造協会本部の事業や県内各地の高齢者大学の諸事業、各施設の情報をお知らせしています。

トピックス

いなみ野学園公開講座「堀江謙一氏講演会」を開催!!

12月4日(日)、海洋冒険家、ヨットマンの堀江謙一さんを講師にお招きし、「未知への航海～人生100年時代の挑戦～」をテーマに、公開講座を開催しました。

堀江さんは、1962年小型ヨットで太平洋を単独無寄港横断したのをはじめ、数々の冒険を成功させ、2022年6月にも世界最高齢で小型ヨットでの単独無寄港太平洋横断を達成しギネス世界記録にも認定されています。

この公開講座は、広く県民の方を対象に著名な講師の講演を聴いていただくことを目的として毎年開催しています。今年度は約630名の方から応募いただきましたが、新型コロナウイルス感染防止対策のため会場の収容人員を制限し、抽選によりメイン会場の講堂270名、オンライン配信のサブ会場80名に参加いただきました。

講演では、最初の太平洋横断の際の苦労話や、到着した米国サンフランシスコでの歓迎ぶりをはじめ、今回の太平洋横断の裏話などを楽しくお話しいただきました。「初めての太平洋横断から60年、多くの人に助けられ出航することができた。人生100年時代。100歳で太平洋を横断してみたい」と新たな挑戦を力強く語る堀江さんに、参加者は熱心に耳を傾け、盛会のうちに終えることができました。



新年ごあいさつ

公益財団法人 兵庫県生きがい創造協会 理事長 林 省吾



あけましておめでとうございます

お正月、皆様には一年の幸せを念じつつ、健やかにお過ごしになられたこととお慶び申し上げます。

さて、いなみ野学園の大講堂の西に、学園創立30周年を記念して建てられた石碑があり、「惜福」という言葉が刻まれています。石碑に添えられた解説には「幸運に恵まれたとき、それを独り占めにすることなく周囲の人にも分け与える気持を持ち、その幸を大切にすると記されています。明治の文豪、幸田露伴が著書「努力論」で説いた幸福を呼び込む三つの方法。それこそが「惜福」「分福」「植福」というのです。

「惜福」とは、自らを抑制し福を無駄にしないよう心がけること。「分福」とは、福を独り占めにせず、他人に分け与える工夫を行うこと。「植福」とは、樹を植えても自分に益はないかもしれないが、やがて実をつけ子孫に恩恵をもたらす。些細な事でも自分の知識や経験を提供することが、幸福や利益を創る源となり世の中の幸福につながるというのです。

持てる機会や時間を無駄にせず、自分を高める努力をし、仲間とともに楽しみや喜びを分かち合う、そして少しでも誰かのためになる行いをする事で生きがいを感じ、それこそが幸せにつながるということなのでしょう。今年は卯年、こんな気持ちを大切に「飛躍」と「向上」の一年になりますことをお祈りします。



兵庫県生きがい創造協会では、高齢者を中心とした県民の皆様の「学び」を応援するため、県内各地の施設で高齢者大学等を開設しています。各施設で学ぶアクティブ・シニアの活動を紹介します。

いなみ野学園

第49回いなみ野祭を開催

11月19日（土）、20日（日）の2日間にわたり、「心をつなぐ学びの輪」をスローガンに第49回いなみ野祭を開催しました。

今年度も新型コロナウイルス感染症対策のため、入場者を制限する形での開催でしたが、大学自治会、大学院自治会の皆さんを中心に企画をすすめ、日頃のいなみ野学園での活躍を認めあう祭典として開催できました。

2日間ともに天候恵まれ、大講堂ではコーラス、舞踏、社交ダンス、詩吟等の舞台発表、また、各教室では、写真、絵画、水墨画、絵手紙等の作品展示、屋外では園芸作品の販売など多彩な催しが行われました。

さらに太極拳やなぎなたなどの模範演武や家族で楽しめる、ろくろ体験コーナーなども賑わいました。

また、開会式ではボランティア活動等を通じて地域社会づくりに貢献した団体に贈られる『兵庫県くすのき賞』の表彰が行われました。



阪神シニアカレッジ(阪神)

「文化祭」を開催

10月12日（水）、13日（木）に3年ぶりとなる「文化祭」を開催しました。

一昨年はコロナ禍のため中止、昨年は開催を予定していたものの、夏頃から感染者数が増加したことから止む無くクラブ活動を中止したため準備をすることができませんでした。今年こそは開催をと、各クラブなどが夏前から準備し、交流ホールで作品を展示、大教室で発表会（13日のみ）を行い、多くの方にご覧いただきました。

カレッジが移転してきた最初の年は近隣の公民館を借りたため、カレッジ館内での開催は初めてということもあり、実行委員は何度も打ち合わせをしました。その甲斐もあり、交流ホールには各クラブの力作がずらりと並び、作品に見入る人、作品とともに写真撮影をする人などで賑わいました。2日目の発表会では大教室に並べた椅子だけでは座り切れなかった方が、廊下からドア越しに鑑賞する姿が見られました。コロナにより講座も行事も制限がある中で、各クラブの日頃の活動を披露するいい機会となりました。



《お問合せ電話番号》

◆いなみ野学園 079-424-3342

◆阪神シニアカレッジ 0797-26-8001

◆うれしの学園生涯大学 0795-44-0711

◆みてやま学園 0796-22-4407

◆ゆうゆう学園 0791-75-3663

◆いざなぎ学園 0799-85-1391

うれしの学園生涯大学(北播磨)

「北播磨アピールかるた」の作成

うれしの大学大学院2年生(第18期生)は、北播磨の名所・旧跡・文化・歴史などを知ってもらおうと、地域のアピールポイントをまとめた「北播磨アピールかるた」を作成し、そのカルタで小学校の児童と交流をしました。児童はかるた遊びのあと、手に入れた札の写真を見て、行ったことがある場所や知っていることを楽しそうに話をしていました。

今後もこのかるたを通して、小学校等を訪れて北播磨地域に興味や関心を多くの方々に持っていただけるよう、活動を行っていく予定です。



ゆうゆう学園(西播磨)



ゆうゆう学園祭 開催

～人の輪が笑顔でつながる 学園祭 2022～

11月5日(土)、ゆうゆう学園(西播磨高齢者文化大学・大学院)最大の行事であるゆうゆう学園祭を開催しました。各学年・クラブはこの日に向けて数か月前から練習を重ね、創作演劇、ミュージカルなど工夫を凝らした芸能発表や日頃の活動の成果を披露しました。感染症予防のため今年も関係者のみによる開催となりましたが、会場は大いに盛り上がり、出演を終えた学生たちの顔は喜びと達成感にあふれていました。

今年度のゆうゆう学園は、学年ごとの料理教室や高校生・保育園児との異年齢交流などを3年ぶりに実施し、コロナ禍で忘れていた、人と人とのつながりや心のふれあいの大切さを改めて感じることができました。



みてやま学園(但馬)

但馬文教府みてやま学園大学院の 実践活動発表会を開催

12月9日(金)、みてやま学園の大学院生が自らテーマを決め、計画し、現地調査した内容等を報告発表する実践活動発表会を開催しました。

1年生は、但馬の歴史遺産や寺院等を訪ねた様子、日高高校看護科と連携してコミュニケーション能力を養成する目的で交流を図った様子、豊岡短期大学の学園祭で模擬店を出店した様子等を発表しました。

2年生は、3班に分かれて1班は「但馬の石碑を訪ねて」と題して但馬各地にある石碑を訪ねてその歴史的背景等を、2班は「但馬の寺院研究」と題して但馬のお寺の状況とお寺の果たす役割等を、3班は「但馬地域の特色あるたべもの」と題して竹野の塩づくり体験、村岡の香美苺、御火浦のホタルイカ関連食品等、但馬の特定地域で作られている特色ある食品を調査した結果をまとめて発表しました。



いざなぎ学園(淡路)

「淡路文化会館創立 50 周年記念式典」を開催



11月9日(水)に、「淡路文化会館創立 50 周年記念式典」を開催しました。

県立淡路文化会館は、昭和 47 年 11 月 1 日に開館し、本年度で創立 50 周年の節目を迎えました。

式典には、淡路地域の県議会議員、市長、市議会正副議長会会長を来賓としてお招きしたほか、文化会館運営協議会委員、歴代館長、いざなぎ学園生など約 200 名の方々に出席いただきました。

当日は、「いざなぎ学園」コーラスサークル講師 佐竹裕子先生と倉本しず代先生によるピアノ伴奏によるソプラノ独唱ではじまり、来賓の方々からご祝辞をいただきました。

その後、日本の陸上界を代表するオリンピックで、テレビ等で活躍されている小林祐梨子様に「人と絆に込めた想い」を演題でご講演をいただきました。この講演会は、「いざなぎ学園」大学の教養講座の一環として行われました。

軽快なトークに、ユーモアを交えながら、「夢や目標の仕方」や「コーチングの大切さ」など大変ためになるお話をお聞かせいただきました。多くの学園生から、「人生、目標を持つことの大切さを改めて教わった」や「今から夢と目標をもって生きていきたい」といった声が寄せられるなど、大きな刺激を受ける機会となりました。



各施設だより

いなみ野学園だより

3年ぶりに大学自治会支部別地域活動を実施！

いなみ野学園大学自治会では、各支部ごとに地域活動を実施しています。

昨年、一昨年は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止しましたので、今年は3年ぶりの開催となりました。

8月から9月にかけて県下16支部がそれぞれの地域で、公園や公共施設の清掃、除草、剪定等のボランティア活動を行いました。

神戸支部では、9月9日(金)に須磨海岸の清掃活動を実施しました。

前夜からの雨で実施が危ぶまれましたが、当日の集合時刻には雨もあがり、熱中症の心配もなく、25名の学生が元気に清掃活動にとりかかりました。2~3人で1組となり、海岸に落ちている空き瓶、空き缶、プラスチックごみ、可燃ごみ等を約1.2kmにわたり回収しました。

海水浴シーズンが終った須磨海岸は人も少なく、静かな中での活動でしたが、毎年の清掃活動をご存じの近隣の方からお礼の声掛けもいただきました。いなみ野学園の活動が地域に浸透していることを改めて知る一日でした。



ひょうごラジオカレッジだより

令和4年度地方スクーリングを開催



今年度も県内6地区において、共通講義や地元の講師による講義など、充実した内容で開催しました。

担当の各地区友の会の方々の準備とご協力により、新型コロナウイルス感染対策を徹底した中で、延べ303名もの学生が参加しました。

共通講義は、湊川神社秘書課広報室長の鈴木智子先生に、「今伝えたい日本の心 —楠公精神と武士道—」と題して、同神社の祭神である楠木正成公の生涯や、後世の人々や海外から

も高く評価されている武士道精神についてお話しいただきました。

そのほか、各地区別に、友の会の企画による講義「兵庫県のはじまり」、「健やか人生」、「言葉と脳を使いココロとカラダを鍛えよう！」や学生発表が実施されました。参加された学生の皆さんは、共に学びを深めるとともに、久しぶりの顔合わせで、嬉しさと笑顔のなか、楽しく交流されていました。

【地区・日時】

- ・丹波 10月7日(金) 柏原住民センター
- ・西播磨 10月12日(水) 姫路市市民会館
- ・阪神・神戸 10月17日(月) 兵庫県民会館
- ・東播磨 10月19日(水) いなみ野学園
- ・但馬 10月24日(月) 豊岡市市民会館
- ・淡路 10月26日(水) 洲本市総合福祉会館



～第25期生が2年次の実践活動を実施しました～

ふるさとひょうご創生塾では地域づくり活動の核となるリーダーを養成するため、必要な地域づくりの理念や知識、技法・スキルなどを2年間にわたり学びます。このうち、1年次の後半から2年次にかけては、グループに分かれて地域に出ていき、実際に実践活動を企画し、実施しました。4月の企画の中間発表会、7月の企画報告会を経て、10月から11月にかけて3グループが実践活動を実施しました。各グループの実践活動の内容をご紹介します。

グループ「ちえのわ」が「ふれあい通り甲南三番街まつり」を開催

【企画意図】 地域の間関係が希薄になり、地域の様々な問題を共有したり、解決したりする場を持つことが難しくなっている。住民同士が日ごろから関係性をつくり、地域の問題に当事者意識を持って解決していく力を持つことが重要である。住民同士が知り合って、子どもから大人まで地域住民みんなが育ちあえる場をつくりたいと考えた。

【実践活動の内容】

○日時：令和4年10月2日（日） 9:00～14:00

○場所：神戸市東灘区甲南町3丁目（東灘こどもカフェ、あたふたキッチン）

○内容：こどもの育成支援活動をしている「東灘こどもカフェ」「こども料理教室おかず寺子屋」と共催で、「カレーとカップケーキ作りと販売」「工作体験」「くじ引き+ゲームコーナー」の3つからなる「ふれあい通り甲南三番街まつり」を開催した。「カレーとカップケーキ作りと販売」では、子どもたち自身で材料の買い出し、準備、客の呼び込み、販売などを体験した。また「工作体験」では地域の高齢者や学生ボランティアが子どもたちにフリスビー作りを教えた。

ミッションを得た子どもたちがミッション達成のために行動していく力を感じたが、一方で年齢相応のミッションでないとその力が発揮されないことも実感する良い機会となった。



グループ「一期一会」が「在住外国人の居場所づくり」テーマに交流会

【企画意図】 神戸市には多くの在住外国人がいるが、在住外国人と日本人が違いを認め、お互いの特性、習慣を認め合う関係性を築くことができれば、いざという時の助け合いも可能になる。そうした日本人と在住外国人が顔の見えるいい関係をつくるきっかけとして、防災をテーマとしたワークショップを開催することとした。

【実践活動の内容】

○日時：令和4年10月9日（日） 13:30～16:30

○場所：神戸市長田区 ふたば国際プラザ

○外国人参加者：神戸外語教育学院留学生

○内容：南海トラフ地震が今後40年の間に90%の確率で発生すると言われ、在住外国人にも日本人にも関心が高いと思われる防災をテーマにワークショップを開催し、外国人と日本人が気軽に交流を続けられる土壌をつくることを考えた。具体的には、アイスブレイクの後、阪神淡路大震災の際の外国人の被害状況や対応、災害時に役立つ防災食料品の説明を行った。また災害時に簡単につくれる紙の器づくりを行った。その後、グループごとに、「一番心配する災害は？」「そのときどのように対処する？」などについて意見交換を行い、交流を図った。

参加者のうちとけた交流が図られ、顔の見える関係をつくるという目的は達成できたが、防災についての深い掘り下げまでいかず、企画づくりの難しさを理解することができた。



「Team Love」が「ふるさとひょうご創生フェス」を開催

【企画意図】 地域における人と人とのつながりが希薄になっている。人と人をつなぎ、コミュニティを担う人材が不足する中、地域づくりの理念や技法を学んだふるさとひょうご創生塾の卒塾生への期待は高まっていると考える。いま一度卒塾生が地域活動の舞台に踏み出し、活躍する契機となる「ふるさとひょうご創生フェス」を開催する。

【実践活動の内容】

○日時：令和4年11月26（土） 13:00～15:00

○場所：神戸市中央区 ひょうごボランティアプラザセミナー室

○内容：卒塾後、地域活動のリーダーとして活躍している卒塾生によってパネルディスカッションを開催した。地域づくりにとって「人と人とのつながりがいかに重要か」「なぜ、卒塾生は十分に能力を生かしていないのか」「第25期生に対して何かアドバイスは」などのテーマで熱心に議論が交わされ、その模様はYouTubeでも配信した。

創生フェスの開催を通じて、多くの卒塾生の活動を知るよい機会となった。ただ、パネリストを現在地域で活躍する卒塾生にお願いしたので意見が似通ってしまったのが残念であった。



生涯学習部だより

「ねんりんピックかながわ2022」兵庫県選手団の競技結果を報告します！

大会テーマ：神奈川に 咲かせ長寿の いい笑顔 ～未病改善でスマイル100歳～



高齢者のスポーツと文化の祭典である「ねんりんピックかながわ2022（第34回全国健康福祉祭 神奈川・横浜・川崎・相模原大会）」が、11月12日（土）～15日（火）の4日間にわたり、神奈川県内の17市9町において開催されました。

この全国健康福祉祭は昭和63年に兵庫県で第1回大会が開催されて、今年で34回目を迎えます。令和2年度、3年度は岐阜県で開催を予定されていましたが、新型コロナ禍の影響で延期・中止を余儀なくされ、今年度3年ぶりに神奈川県での開催です。

兵庫県からはスポーツ20種目、文化2種目の計22種目に149名の選手・監督が参加し、熱戦を繰り広げるとともに他府県の参加者との交流を深めました。

競技結果は次のとおり、兵庫県選手団として、なぎなた（個人・団体）、サッカー（Lブロック）の優勝をはじめ、計19個の入賞を果たしました。

《競技結果（上位入賞分）》

種 目	総合・グループ別	順 位	表彰項目
なぎなた（団体）	試合競技	1 位	優勝
なぎなた（個人）	交歓試合（第1試合場）	1 位	優勝
サッカー（団体）	Lブロック	1 位	優勝
オリエンティエering（団体）		2 位	準優勝
水泳（個人）	男子85歳以上背泳50m	2 位	第2位
水泳（個人）	女子80～84歳平泳50m	2 位	第2位
水泳（個人）	男子65～69歳平泳50m	2 位	第2位
水泳（個人）	男子65～69歳平泳25m	2 位	第2位
水泳（個人）	女子70～74歳バタフライ50m	2 位	第2位
ソフトテニス（団体）	1位グループ	3 位	第3位
水泳（個人）	女子80～84歳平泳25m	3 位	第3位
インディアカ（団体）	第1グループ	3 位	第3位
将棋（団体）	団体戦	3 位	第3位

その他：卓球、マラソン、なぎなた、ウォークラリー、囲碁で優秀賞等を受賞



阪神シニアカレッジだより

令和5年度の入学生を募集します

令和5年1月4日（水）～13日（金）に令和5年度の入学生の申込受付を行います。

対象者は神戸市、尼崎市、西宮市、芦屋市、伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町在住で令和5（2023）年4月1日現在56歳以上の方。

4年制の園芸学科、健康学科、国際理解学科の3学科、2年制の阪神ひと・まち創造講座の4つのコースがあり3学科の定員はそれぞれ50名、阪神ひと・まち創造講座は30名です。

申込者が定員を上回った場合は令和5年1月19日（木）10：00～ 阪神シニアカレッジ 交流ホールで公開抽選により入学内定者を決定します。

入学生募集について詳しくはお電話などでお問合せいただくか、阪神シニアカレッジのホームページ（<https://hsenior.jp/>）でご覧いただけます。募集案内や入学申込書のダウンロードも可能です。

令和4年12月22日（木）には「阪神シニアカレッジ2022 オープンキャンパス」として、クラリネット奏者 Le Monde Clarinet Ensemble によるクリスマスふれあいコンサートを開催し、入学生募集について案内させていただくほか、カレッジ内とクラブ活動を見学していただけます。



嬉野台生涯教育センターだより

初開催！【うれしの台親子 DAY キャンプ】

当施設での体験が、親子の絆を深めるとともに、世代を超えて協力すること、困難に立ち向かう勇気や達成感を得られる経験ができるよう、安全面や環境に配慮しながら開催しました。活動内容は、ひょうご冒険教育（HAP）とカヌー体験で、26名の参加者は2つの班に分かれ、午前午後と入れ替え制で体験し、少人数で密になることなくゆっくりと体験を楽しみました。

HAPの活動の1つである「ラインナップ」では、エレメント（丸太）の上に乗し、丸太から落ちないようにして誕生日順に並び替わることに挑戦。全員で会話をし、協力し、体の位置をどうするか工夫しながら移動しました。

カヌー体験は親子で挑戦。カヌーは前後で役割がありますが、この日は親子で話し合い、位置を決め、ポール運びや鬼ごっこなどをして楽しみました。

参加後のアンケートでは、「体を動かすことが楽しかった」「また体験に来たい」との回答をいただきました。



【ラインナップ】



【カヌー体験】

令和5年度 ゆうゆう学園入学生募集！

中・西播磨のシニアが集い、元気に学び、活動し、交流するゆうゆう学園（西播磨高齢者文化大学・大学院）の令和5年度入学生を募集します。募集期間は令和5年1月4日（水）から3月31日（金）まで。応募方法など詳しくは西播磨文化会館ホームページをご覧ください。



また、令和5年1月20日（金）と2月3日（金）にはオープンカレッジ（公開講座）も開催します。多くの方のご参加をお待ちしています。

兵庫地域高齢者大学

ゆうゆう学園
(西播磨高齢者文化大学)

令和5年度 学生募集 受付開始

ゆうゆう学園では、いつまでも元気で楽しく生きたい！「視野を広げたい！」「新しい仲間を作りたい！」「誰かの役に立ちたい！」「異世代とも交流したい！」と願っている、そんなシニアの皆さんをお待ちしています！

講座 大学講座（4年制）
(定員60名)

開講日 年間27回（原則全曜日）

応募資格 次の3項目にあてはまる方
①中・西播磨地域在住の年齢60歳以上の方
②地域活動について関心や意欲のある方
③4年間を学べる可能性がある方

講座内容 教養講座、専門講座（漢学・地・経済・保健・福祉文化の3コース）、季節講座、クラブ活動、社会参加活動、各種行事

受講料 年費12,500円 ※大学・大学院共通

受付期間 令和5年1月4日（水）～3月31日（金）

申込方法 募集の入学案内書に添付「申込書」により入学申込書をお渡しし、お申し込みください。詳細は申込書をご覧ください。

申込先 西播磨文化会館
〒470-4311 たつの市神崎町宮内432-2
TEL: 0791-75-3663 FAX: 0791-75-0992
URL: <https://nishihorikawabunka.jp/>
・（※）電話での受付時間 平日 9:15～17:30

新型コロナウイルス感染症対策を講じて開催しています。
入学された方には、兵庫県知事の表彰状が授与されます。
ゆうゆう学園は、学校教育法に基づく大学等ではありません。
今ががやく、あなたのライフステージ！ (公財)兵庫県生きがい創造協会 西播磨文化会館

令和5年度

兵庫県地域高齢者大学 ゆうゆう学園
西播磨高齢者文化大学（4年制）・大学院（2年制）

入学案内

入校の覚悟で頑張る 夢を叶えたい！

視野を広げたい
誰かの役に立ちたい
新しい仲間を作りたい
いつまでも元気で楽しく生きたい
異世代とも交流したい

◆◆◆ 今ががやく、あなたのライフステージ！ ◆◆◆
(公財)兵庫県生きがい創造協会 西播磨文化会館

西播磨ふるさと文化祭 2022 開催！

11月27日（日）、西播磨ふるさと文化祭 2022 を開催しました。

この行事は、西播磨地域の芸術文化活動の発信と交流を促し、ふるさとづくりに向けた意識の醸成を図るため、子どもから高齢者までの地域で活動する団体の発表の場を設け、世代を越えて楽しみ、感動できる芸術文化祭にしようと、（公財）兵庫県生きがい創造協会西播磨文化会館と兵庫県西播磨県民局との共催で開催したものです。

開会式で兵庫県自治賞、兵庫県くすのき賞等の表彰を行った後、講堂では芸術文化団体や地域活動団体による西播磨ステージ、体育館では地域活動団体のブース展示と物品販売、中庭ではふるさとバザール、西播磨フードセレクションによる販売、さらに各教室では子どもも大人も楽しめる「文化体験教室」などの体験コーナーを数多く設けるなど、多彩な催しを行いました。

この日は秋晴れの良い天気にも恵まれ、およそ 1,500 人が様々な文化体験を楽しみ、館内は終日活気に満ちていました。





但馬文教府だより

「科学する但馬の子ども作品展」を開催！

但馬文教府では、小中学生の理科に基礎をおく研究記録、観察記録等を募集し、9月16日（金）から9月25日（日）の間、「科学する但馬の子ども作品展」を開催しました。

この作品展は、児童生徒の科学的思考力を養うとともに、自らの力で探究する喜びを味わい、その研究を発表することを通して子どもたちの生きる力を育成することを目的に開催しています。

毎年、小中学校を通じて力作を集めて展示しており、今年は合計210点（小学生145点、中学生65点）の展示作品の中から、特に優秀な作品19点を表彰しました。



「第57回但馬歴史講演会」を開催！

11月18日（金）但馬史研究会と但馬文教府の共催により「第57回但馬歴史講演会」を開催しました。今年は鳥取大学地域学部教授の岸本覚氏をお招きし、「近世後期における地域の文化交流～但馬と鳥取のつながり～」と題して講演していただきました。

幕末の但馬で起きた生野の変に鳥取藩士が大きく関わっていたこと、池田草庵の青谿書院が鳥取藩士にも影響を与えたこと、鳥取藩主に対する徳川家康の感状が浜坂の民家で発見されたことなど、幕末から明治にかけての但馬と鳥取のつながりについて解説していただきました。

当日は但馬や近県の歴史ファンだけでなく、みてやま学園の教養講座・地域公開講座Ⅲとして開催し、学園生・聴講生合わせて約170名の方が熱心に聴講しました。



「国生みの島元気っ子フェスティバル」を開催！

10月2日（日）に、淡路地域で活動する様々な団体などの協力を得て、こころ豊かで健やかな子どもの育成を図ることを目的とした「国生みの島元気っ子フェスティバル」が3年ぶりに開催されました。

事前にWeb申込で募集したところ、親子など800人の方々からの申込みがありました。

当日は、天気にも恵まれ、竹工作、的あてや折り紙などの昔遊び、消防士はしご車体験、白バイでの記念撮影など様々な体験をした子どもたちが会場各所で大きな歓声を上げていました。島内外の大学生、高校生たちの皆さんにも、運営ボランティアとしてご協力いただき、一体となってフェスティバルを盛り上げていただきました。



令和5年1月発行

公益財団法人 兵庫県生きがい創造協会

〒675-0188

加古川市平岡町新在家 902-3

TEL:079-424-3380 FAX:079-424-3475

いなみ野学園	079-424-3342
ひょうごラジオカレッジ	079-424-3343
ふるさとひょうご創生塾	078-360-9015
阪神シニアカレッジ	0797-26-8001
嬉野台生涯教育センター	0795-44-0711
但馬文教府	0796-22-4407
西播磨文化会館	0791-75-3663
淡路文化会館	0799-85-1391